

(1)旧長谷川邸の魅力

◎浮かび上がる長谷川邸の暮らしぶり 「質素に生き、上質に暮らし、未来に生きる」

魅力
1

歴史の重層性・連続性

過程(プロセス) 歴史の重層性、連続性
家庭(ファミリー) 家と庭と生活の場

魅力
2

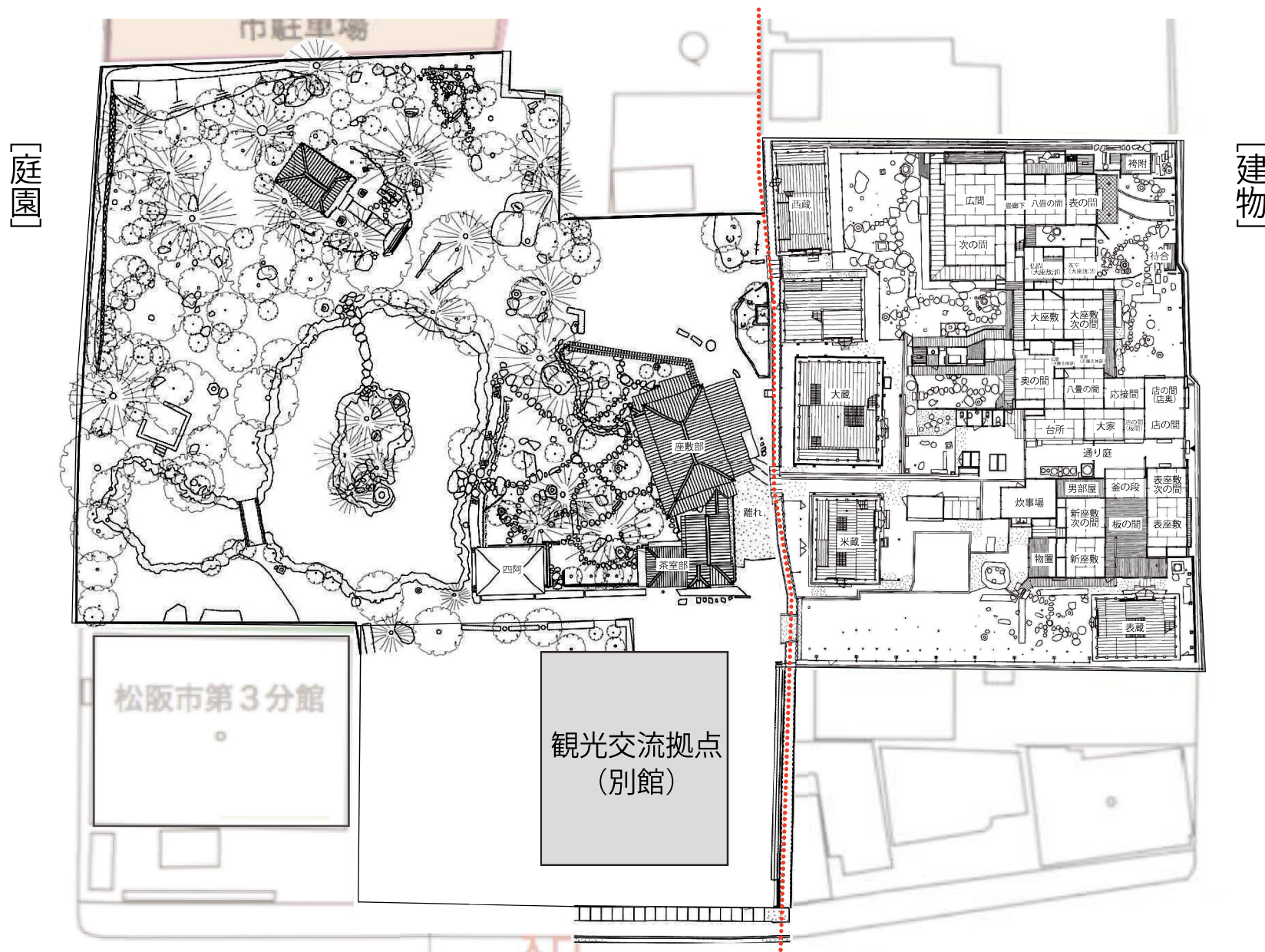
奥深い松阪商人の暮らし

豪華絢爛 日本の経済発展の中で大きな富を得た大商人
質素儉約 豪華絢爛のイメージの背後にある日常の暮らし
文化活動 文化芸術の持つ創造性を活かした産業振興と地域活性化

魅力
3

松阪商人の“生き証人”

生き証人 寄贈直前まで年中行事が続けられ、伝えられる人がいる



屋敷地全体の経歴に、江戸時代から近代に至るまでの
長谷川家及び伊勢商人の歴史性が重層的に内包されている。

◎江戸時代以来の建物・所蔵資料・年中行事、庭園等が一括保存されている稀有な文化財。

◎長谷川家旧宅は、全国的にも有数であった伊勢商人の屋敷地の、敷地、建物、庭園等主たる構成要素がまとまって残されている点、そして、この屋敷地の変遷が、長谷川家ひいては伊勢商人の歴史的な動向と併せて跡付けられる点に、史跡としての大きな価値がある。

◎庭園等を含む敷地全体が残る長谷川家の事例は、江戸時代から近代にかけて活躍した伊勢商人の本拠地における商業活動や生活の様相を窺うことができる点で、極めて貴重なものである。

◎庭園については、いずれも質素儉約を家訓とした商家にふさわしい落ち着きのあるもので、各所に見どころとなる景物が取り入れられており、鑑賞上の価値が高い。全体的に保存状態もよく、建造物と一体となって屋敷地全体の豊かな景観を作り出しており、名勝として十分に評価できる。

◎庭園の多様な構成は、明治期以降の屋敷地の拡張とともに整備されていったそれぞれの空間の利用目的に合わせて作庭が行われたことによるものであり、近代における屋敷地の拡張・増築と造園との関連を窺う上で貴重な事例。

旧長谷川邸は、複合的な歴史的文化遺産によって、
近世の「江戸店持ち伊勢商人」が近代的な企業経営者へと移行する
状況を重層的に理解することのできる文化財としては、
三重県で唯一のもの。

◎長谷川家では、創業から松阪市への寄贈直前まで年中行事が脈々と続けられてきた。商家に長く伝えられてきた習俗、慣習を示す資料や、それを伝える人がいることは、近世商家における習俗を知ることのできる貴重な生活文化として評価できる。

◎庭園には、離れ座敷とそれに付属する茶室、四阿が建てられている。かつては「餅舎」と呼ばれたもうひとつの離れ座敷や「今日庵」と呼ばれた茶室も存在していた。これらの建物と庭園が一体となって、長谷川家当主の文化活動の拠点となり、当時の松阪における一種のサロンの存在として機能していた。

◎神祠には長谷川家の屋敷神として「稻荷」だけでなく、魚町1丁目の山の神も祀られている。現在も大切な年中行事のひとつとして山の神行事は継続されており、近隣居住者の精神的なつながりを象徴する場として、この庭園の持つ意味は非常に大きい。

◎創業以来大切に管理してきた、商業資料・古文書・蔵書類及び商業関係諸道具類・生活用具類、茶道具類、美術工芸品類など膨大な史資料も、極めて良好な状態で保存されている。各土蔵等に収蔵されている、長谷川家のさまざまな活動を示す史資料は、現在まで繋がる江戸店持ち伊勢商人の詳細な経済活動、生活等を研究する上で極めて貴重な歴史的文化遺産。

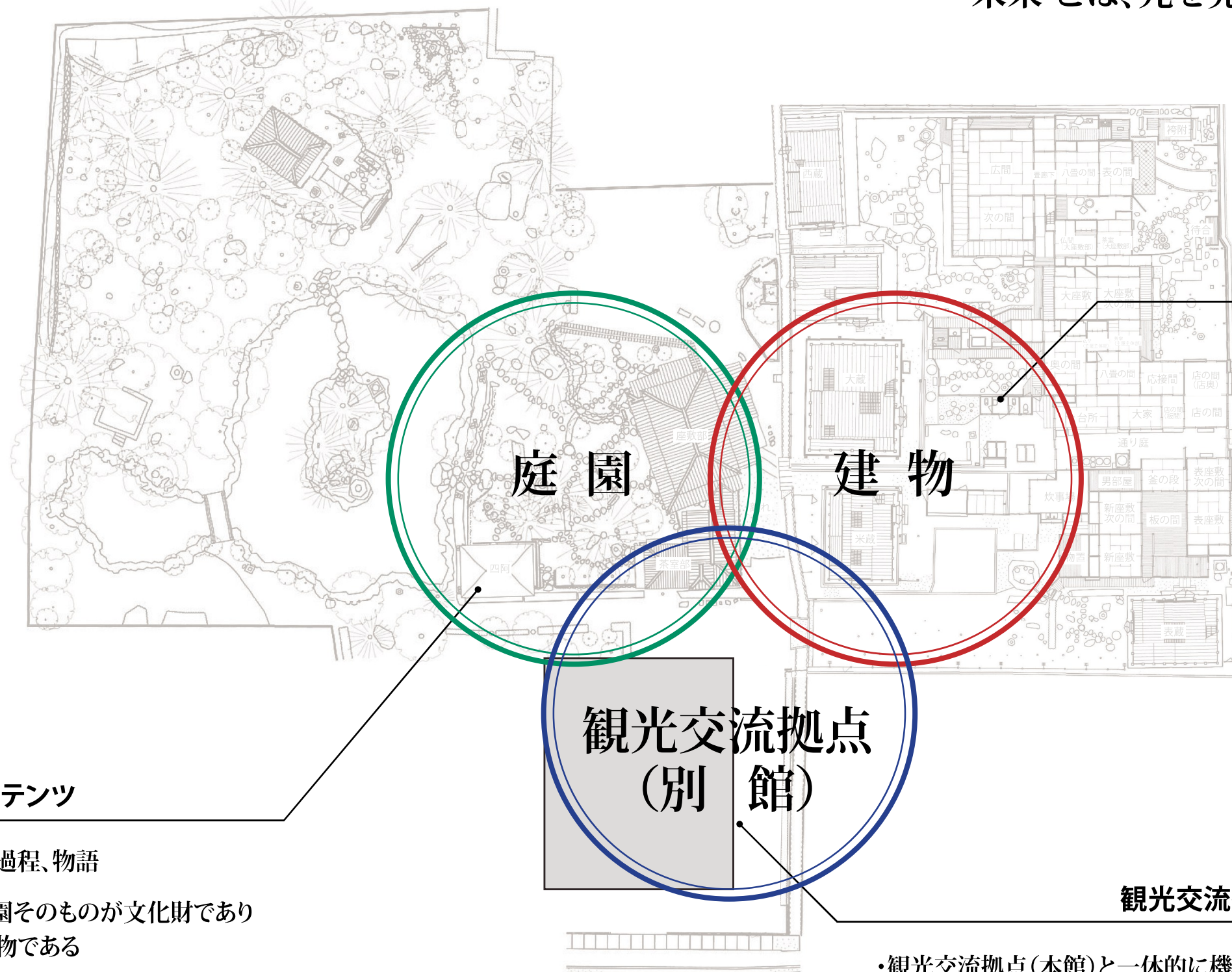
◎旧長谷川邸魚町地内に立地する建造物群は、奇抜な意匠や華美な装飾こそ施さないが、近世に建築された部分は重厚な構えを見せ、近代には良材を用いた上質の建物を造る。このことは、質素・儉約を創業以来の家訓として堅守した長谷川家の家風をよくあらわしている。

出典：旧長谷川邸保存管理計画(策定中)

(2)旧長谷川邸の保存・活用方針

旧長谷川邸が持つ「魅力」の本質は“未来”にある

“未来”とは、先を見通す目、創造力、人づくり



建物のコンテンツ

- ・建物の形成過程、物語
- ・現存する建物そのものが文化財であり貴重な展示物である
- ・建物の日々の掃除や修繕は重要な営みであり、展示物であり、体験である
- ・季節ごとの営み、神事
- ・建物内に残る膨大な歴史資料、商業資料

庭園のコンテンツ

- ・庭園の形成過程、物語
- ・現存する庭園そのものが文化財であり貴重な展示物である
- ・庭の手入れは重要な営みであり、展示物であり、体験である
- ・四季折々の風景、季節ごとの営み、神事

観光交流拠点(別館)のコンテンツ

- ・観光交流拠点(本館)と一体的に機能する施設とする
- ・文化財である現存する建物・庭園ではできない展示を行う
- ・見えなくなってしまった旧長谷川邸の魅力を再現する

(1)施設テーマ

旧長谷川邸の保存・活用

長谷川家の繁栄と“未来”に出逢う施設

長谷川家の歳時記や所蔵品などを通じて、豪商の価値観・教養・知恵などを知り、当時の暮らしぶりを体感・体験していただきます。

(2)施設のねらい

1	豪商の本質を垣間みることによる 松阪商人への好奇心の喚起	2	江戸時代から守り伝えられてきた 貴重な品々に触れることによる豪商の実感	3	これから続く文化財調査結果の 発表と共有
---	---------------------------------	---	--	---	-------------------------

(3)施設構成

建物

●公開ゾーン●

- ・公開・活用（実物展示）

●非公開ゾーン

- ・左記にない居室（男部屋、炊事場など）
- ・蔵（表蔵、米蔵、新蔵、西蔵）
- ・トイレ
- ・物置

※場の雰囲気損なわない意匠の間仕切り壁などで公開ゾーンとの区分を行う。

●管理ゾーン

庭園

●公開ゾーン●

- ・公開・活用（実物展示）

(4)展示構成

大項目（ねらい）	中項目	（内容）	展示の考え方
建物 現存する建物そのものが文化財であり貴重な展示物であることを伝える場。	1) エントランス ・玄関～通り土間	外構には街の景観に配慮しつつ、一般公開施設であることを示すアイコン表示や、施設の概要、開館時間などを記載した案内サイン（可動式）を設置し、来訪者が足を踏み入れやすい環境を整える。あわせて旧長谷川邸の文化財的価値を伝え、邸内の見どころをナビゲートすることを目的に、長谷川家の歴史や家屋建築を紹介するガイダンス展示を行う。	外構には一般公開施設であることを示す案内サイン（可動式・置き式）を設置する。 玄関には長谷川家の概要と、旧長谷川邸が貴重な文化財であることを紹介するグラフィック（可動式）を設置する。
	2) 母屋 (大家、大座敷、茶室、奥、仏間、江戸間)	現状の邸内の設えを活かし、長谷川家で行われていた年中行事や神事の場面を実物資料やレプリカなどを用いて再現する「豪商歳時記展示」を行う。 長谷川家の絢爛豪華な豪商としての側面だけではなく、先祖や神を大切にし、奉公人の育成に余念がなかった日々の厳粛かつ慎ましやかな暮らしぶりについて、長谷川家を知る当時の番頭さんや、長谷川家の職制などから未来に生きる術を学ぶ。	長谷川家で行われていた年中行事や神事の場面を、それらが実際に行われていた部屋で再現する「豪商歳時記展示」を行う。再現で使用する調度品や道具については資料保護の観点から実物をもとにレプリカを制作し、これを展示する。豪商歳時記展示は年中行事や神事が実際に行われていた時期に則して行うものとし、月1回程度の展示更新を行う。 各部屋には建築空間の雰囲気損なわないよう、建築の雰囲気を考慮したシンプルな意匠の室名サインのみを設置し、詳細な解説についてはサインと連動したタブレット端末などICTによる情報提供を行う。
	3) 大正座敷、離れ	現在では希少となった伝統的建築で活け花、茶会、句会など日本の伝統文化体験＝本物体験を供する施設として活用する。原則、建築面は現状維持を守り、動線計画や運営計画などソフト面での工夫を施す。	展示は行わない。但し各種講座やワークショップ対応の環境整備（机、座布団、照明など）を行う。
	4) 大蔵	長谷川家の資料を保管する収蔵庫・展示室として活用する。	収蔵状況をそのまま見せる収蔵展示を行う。建築の雰囲気を考慮したシンプルな意匠のデザインのキャプションのみを設置し、詳細な解説についてはキャプションと連動したタブレット端末などICTによる情報提供を行う。 蔵内に展示ケース1台分程度の展示用スペースを設け、ミニ企画展示が行えるよう整備する。
庭園 現存する庭園そのものが文化財であり貴重な展示物であることを伝える場。	庭園	庭園からも質素儉約を垣間見れる落ち着きがあり、各所に見所となる景物が取り入れられている。必要最低限の修繕と池周辺の安全対策を施した上で、散策できる癒し・憩いのスペースとする。	庭園の雰囲気を考慮したシンプルな意匠の順路サイン、植物など解説キャプションを制作する。詳細な解説についてはキャプションと連動したタブレット端末などICTによる情報提供を行う。

(5)建物・庭園の展示の考え方

① エントランス・玄関～通り土間

外構には街の景観に配慮しつつ、一般公開施設であることを示すアイコン表示や、施設の概要、開館時間などを記載した案内サイン(可動式)を設置し、来訪者が足を踏み入れやすい環境を整える。見学ルートのスタートとなる玄関では、旧長谷川邸の文化財価値を伝え、邸内の見どころをナビゲートすることを目的に、長谷川家の歴史や家屋建築の紹介するガイダンス展示を行う。

② 母屋・大家、大座敷、茶室、奥、仏間、江戸間

現状の邸内の設えを活かし、長谷川家で行われていた年中行事や神事の場面を実物資料やレプリカなどを用いて再現する「豪商歳時記展示」を行う。長谷川家の絢爛豪華な豪商としての側面だけではなく、先祖や神を大切にし、奉公人の育成に余念がなかった日々の厳粛かつ慎ましやかな暮らしぶりについて、長谷川家を知る当時の番頭さんや、長谷川家の職制などから、未来に生きる術を学ぶ。

③ 大正座敷・離れ

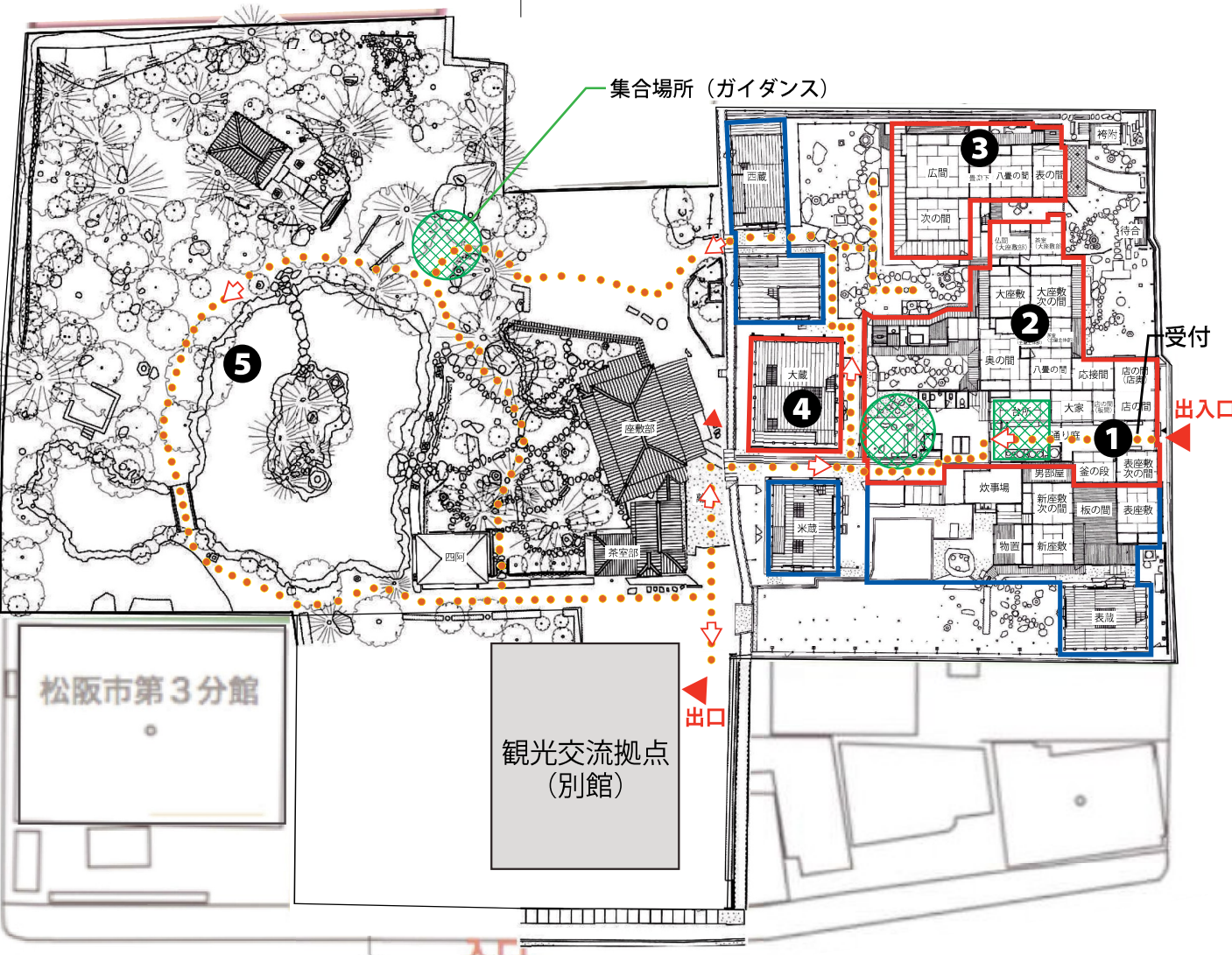
現在では希少となった伝統的建築で活け花、茶会、句会など日本の伝統文化体験＝本物体験を供する施設として活用を行う。原則、建築面は現状維持を守り、動線計画や運営計画などソフト面での工夫を施す。

④ 蔵 (表蔵、米蔵、大蔵、新蔵、西蔵)

長谷川家の資料を保管する収蔵庫・展示室として活用する。

⑤ 庭園

庭園からも質素倹約をかいま見れる落ち着きがあり、各所に見所となる景物が取り入れられている。必要最低限の修繕と池周辺の安全対策を施した上で、散策できる癒し・憩いのスペースとする。



「豪商歳時記展示」(番頭さんによる監修)

大座敷	
1月1日	門神様に鏡餅を供える 大座敷床前の壁に鏡餅(東京分)を置く 八畳で、店の者一同が主人に挨拶 湯呑茶碗に高茶台にて梅茶を頂く 八畳で、店の者一同が主人に挨拶
1月20日	恵比寿講(*年中行事のなかでも重要なもの) 座敷床 三幅神、扇子等を祀る 次の間 常信筆 鯛之図を祀る
3月13日	宗印居士命日 *宗印居士(長谷川政幸)長谷川家繁栄の礎を築いた第3代当主
10月20日	恵比寿講(*年中行事のなかでも重要なもの) 座敷床 三幅神、扇子等を祀る 次の間 常信筆 鯛之図を祀る



恵比寿講の様子

茶室	
1月1日	元旦 書初めは水引で祝い、歳徳神に納める 恵比寿講(*年中行事のなかでも重要なもの)
1月20日	茶室床 宗暉筆 人間萬事二天作五 竹香炉を祀る
10月20日	恵比寿講(*年中行事のなかでも重要なもの) 茶室床 宗暉筆 人間萬事二天作五 竹香炉を祀る



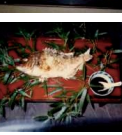
書初め

仏間	
2月	節分会 神仏に神酒・灯明・炒り豆等を供える
8月	盆 法界様

奥	
1月1日	元旦 退職者、奥女中、主人に挨拶 雑煮祝い(店の者一同に鏡餅、出入の者に鏡餅料を送る)



恵比寿講用の掛け軸



供えられた料理

大家	
1月1日	元旦 大晦日に用意した若水の入った桶を大家に置く 旧水で手洗い、井戸の中から屠蘇を揚げ、若水の桶に入れる 恵方を向いて若水を汲み、茶釜と書初めの水入れに入れる



正月飾り

江戸間	
3月	江戸店算用目録披露
9月	江戸店算用目録披露



「御竈神」に飾られた餅花

神祠	
2月	春季鎮守社(稲荷)祭典
2月25日	鎮守社に御饌、御膳を供える
11月23日	山之神祭(魚町一丁目祭事) *明治時代に邸内に移された魚町1丁目の山ノ神 *現在も魚町一丁目自治会が殿町庭園で実施(非公開?)
11月25日	春季鎮守社(稲荷)祭典 鎮守社に御饌、御膳を供える

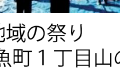


地域の祭り(魚町1丁目山の神)

庭園	
12月	餅搗



全域	
11月	「火用心」札掲立
12月	大掃除 注連縄飾(迎春準備) *玄関、土蔵、大正座敷庭等に注連縄を飾る



「火用心」版木

屋敷外	
3月	年回(最大の行事、仏事、一番良い道具を使用) *清光寺で行う法要・年忌
4月	講参宮(伊勢参拝) *年回の翌日、4年に1度神宮に参拝する行事
7月	祇園祭



屋敷神(稲荷)を祀る

「長谷川家の職制から学ぶ」 長谷川家に伝わる職制を参考に、未来に生きる術を学びます。

江戸店で働く奉公人は、長谷川家の家訓にしたがい、商売の仕方を学びました。奉公人は年齢や能力により、子供、手代、支配人、別家などの序列があり、勤め始めから8年前後で暇をもらい帰郷する初登り、以後、二度登り、三度登りを経て支配人となりました。ここまで残れる人はごくわずか、さらに数年を経て別家としてのれんわけされ、ようやく独立できたのです。

このような人材育成のプログラムを参考に、長谷川家を知る当時の番頭さんを通じて未来に生きる術を学びます。

長谷川家の人材育成

- 子供衆
 - ・開店2時前の毎朝6時に起床、煙草盆・灰吹・火鉢・大八車の掃除
 - ・番下駄・番傘の管理
 - ・諸道具役(かなづち、のこぎりなどの点検)
 - ・毎朝、神仏のお守り、子供全員の仕事の指揮監督、病気の世話など
- 手代
 - ・雑役、蔵役(蔵の商品、店の商品の一切の出納在庫管理など)
 - ・店に出て小売衆と取引にあたる各販売員
 - ・染物や晒の係、中形裏地の仕入加工・仕入助手・仕入主任
- 支配人
 - ・店勘定目録の点検、正金銀の借入と貸付の厳正、商売のかけ引き、未払金の取集めについての留意
- 退役人
 - ・支配人の後見、勘定目録に加判、江戸店差配の地面、長屋、質店の管理
- 別家(独立)

展示什器の考え方(例) 建築のイメージを損なわない様に木製で可動式を基本とする。

体験プログラムサイン

体験プログラムやイベントを行う際、事前にプログラムの概要や意味を伝えるオリエン用ボードとして利用。



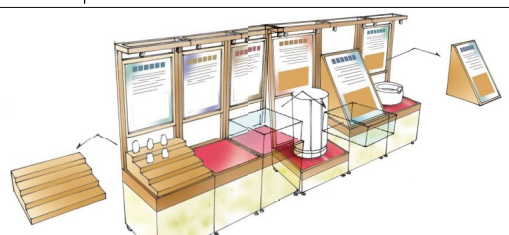
分割稼動式什器A

衣装展示など、トルソーやマネキンを使用する展示の際に利用。屏風裏面は自由にパネルが展示できる多目的壁面とします。



分割稼動式什器B

邸内や時間軸上に点在するものを1箇所に集めることで見比べることができる展示や、日常生活の1コマを示すエピソードをそれに関連する実物資料や写真グラフィックで複合的に表現。



※展示内容は入れ替え可能。その展示内容に関わりのある居室に設置して利用。
※什器は組み立て式としコンパクトに分解できる仕様とする。未使用時は分解し非公開ゾーンに収納する。

(1)施設テーマ

観光交流拠点(別館)の整備

長谷川家の繁栄と“未来”に出逢う施設

長谷川家の歳時記や所蔵品などを通じて、豪商の価値観・教養・知恵などを知り、当時の暮らしぶりを体感・体験していただきます。

(2)施設のねらい

1	豪商の本質を垣間みることによる 松阪商人への好奇心の喚起	2	江戸時代から守り伝えられてきた 貴重な品々に触れることによる豪商の実感	3	これから続く文化財調査結果の 発表と共有
---	---------------------------------	---	--	---	-------------------------

(3)施設構成

1F

- 観光案内ゾーン●
- ・まちなか観光案内

- 松阪木綿ゾーン●
- ・木綿づくり体験

- ・木綿情報展示
- ・木綿製品展示

- 共用ゾーン
- ・トイレ
 - ・休憩コーナー

- 管理ゾーン
- ・事務室
 - ・倉庫
 - ・給湯室

2F

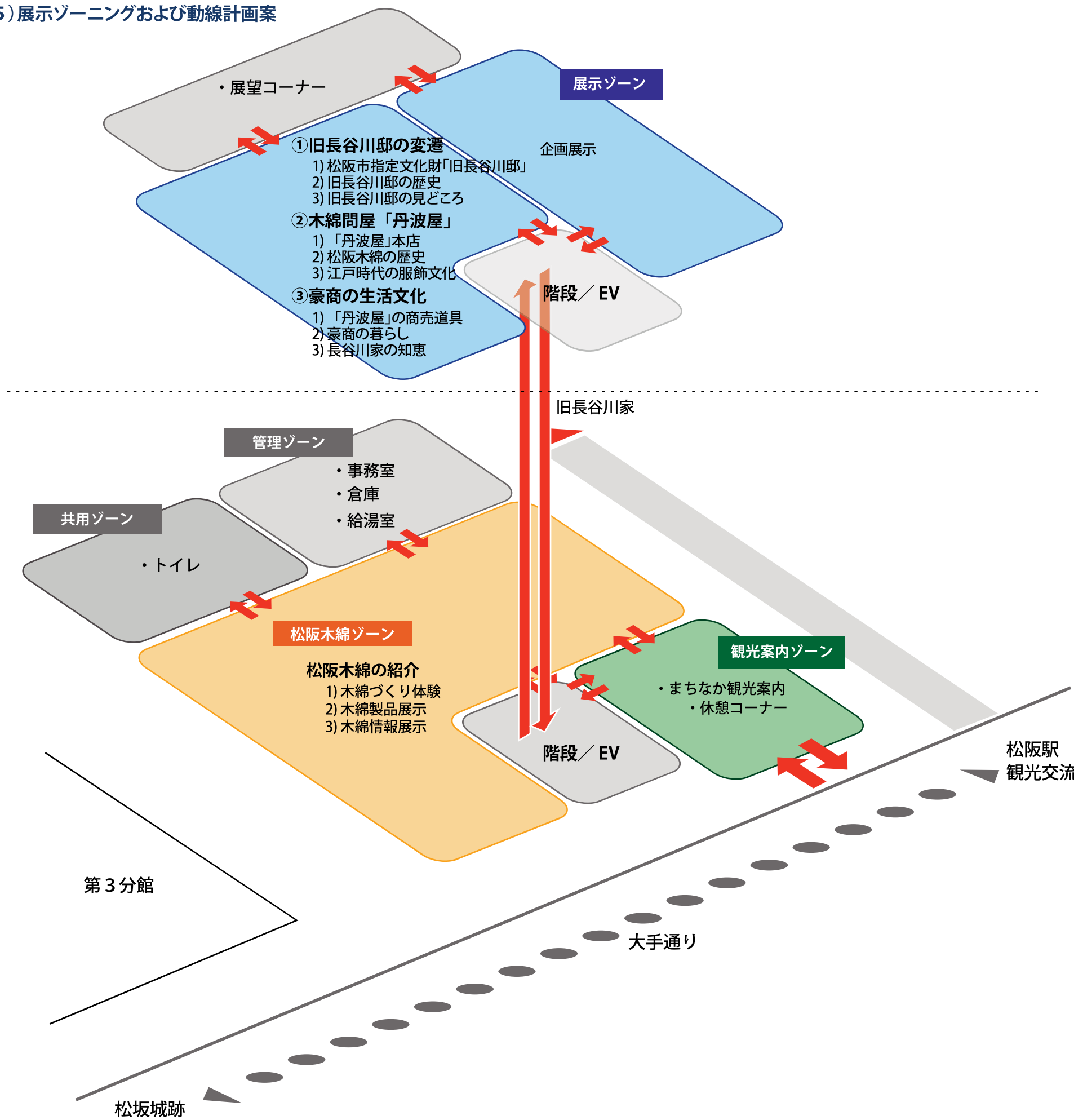
- 展示ゾーン●
- ・展示
 - ・企画展示

- 共用ゾーン
- ・展望コーナー

(4)展示構成

大項目(ねらい)	中項目	(内容)	展示の考え方
まちなか観光案内	まち歩きアレンジメントサービス	数々のまちなかの見どころを、来訪者の好みに応じてつなぎ、オリジナルの観光ルートを提示する。	来訪者の趣味や興味に個別に対応し、より満足度の高いまちなか観光の機会を提供するために、 情報検索とまち歩きアレンジメントサービス を行う。
松阪木綿の紹介 松阪もめん手織りセンター機能と松阪木綿関連情報展示の拡充	1) 木綿づくり体験	技術者による手織り実演を見学、または来訪者や学校園の生徒が手織り木綿を体験できる。	来訪者の 機織り機による手織り木綿体験 および 技術者による実演展示 を行う。
	2) 木綿情報展示	松阪の産業として発展して来た木綿を歴史や製造技術の面からも掘り下げた情報を展示紹介する。	まちなかの施設において点正在している松阪木綿に関する実物資料を集約し展示する。あわせて松阪木綿の歴史や特徴に関する基礎情報については イラストを交えたグラフィック で、製造過程については技術者による 制作風景の記録映像 で紹介する。
	3) 木綿製品展示	作家や市民愛好家による松阪木綿を使った作品や製品などを展示する。	松阪木綿の作家や愛好家による作品展示を行う。
① 旧長谷川邸の変遷 旧長谷川邸の概要と建造物(建物・庭園)の魅力と見どころを伝える。	1) 松阪市指定文化財「旧長谷川邸」	旧長谷川邸の文化財としての価値を紹介。江戸時代から近代にかけての商家の様子を知ることができる貴重な資料であることを伝える。	大型タッチパネルモニタによる体験型映像システム により旧長谷川邸の全貌を俯瞰できる展示を行う。見学後に改めて俯瞰してもらうことは、来訪者の興味関心をより高めることにつながる。CG画像による旧邸の俯瞰図をベースに、ICT技術により全間取りや建築上の特徴など見学の際には伝わりづらい部分についての解説を行う。あわせて旧長谷川邸の屋敷地や間取りの歴史の変遷や、かつての生活風景を見せるなど、様々な角度からその文化財的価値について示す。
	2) 旧長谷川邸の歴史	長谷川家が所有する敷地の変遷や建造物の増改築の歴史、庭園の変遷を紹介。現存する建造物の構造や間取りについても解説する。	
	3) 旧長谷川邸の見どころ	主屋の格子戸や霧よけ、うだつ、塗り壁のほか、別棟の大正座敷、離れ、神祠、そして庭園など、外見から確認できる建築や設計の特徴を紹介する。	
② 木綿問屋「丹波屋」の紹介 長谷川家が商っていた木綿に関する情報を提供。豪商となった背景を伝える。	1) 「丹波屋」本店	江戸時代前期に江戸店を出店し、木綿を中心に米・雑穀・干鰯・煙草などの販売を行い、大きな財を成したことを紹介。旧邸は松阪本店として機能していたことを伝える。	長谷川家が豪商として大成していく経緯や、商いの知恵、日々の質素な暮らしなどを紹介する。松阪の豪商の本質を来訪者に正確に印象深く伝えることを主眼とし、ストーリー性やドラマ性が重要であると考える。また現在では見ることができないことや、実物資料＝モノによる展示ではすべてを伝えることが難しいため、 実写、アニメ、再現CGなどによるオリジナル映像番組 を制作し上映する。
	2) 江戸時代の服飾文化	レプリカ衣装や浮世絵、錦絵などで、松阪木綿を基本とした江戸時代の服飾文化の変遷を紹介。“粋”の美意識、着こなしの変化、花魁や歌舞伎役者がファッションリーダーであったことなどを伝える。	
③ 豪商の生活文化 豪商として全国に名を馳せた長谷川家の暮らしの実態や本質を伝える。	1) 「丹波屋」の商売道具	長谷川家で使用されていた千両箱やそろばん、大福帳など商売に関連した資料や松阪御為替組紀州藩札などを展示し、商家としての長谷川家の様子と紀州藩との関わりを紹介する。文化財の調査結果の速報展示も行う。	
	2) 豪商の暮らし	茶の湯の茶碗、年中行事の道具、生活道具など豪商ならではの暮らしの道具を展示。意外に質素な日々の営みや日本文化への造詣の深さを紹介する。文化財の調査結果の速報展示も行う。	映像番組のなかで解説されている情報のうち、長谷川家のあゆみや商売の体制など映像では詳細に伝えづらい情報については グラフィック での展示も行う。
	3) 長谷川家の知恵	丁稚・手代・支配人・退役人などによる断層的組織や給金制度など、管理機構について紹介。江戸時代から未来を見据え、永続的发展を目指した人づくりが行われていたことを伝える。文化財の調査結果の速報展示も行う。	

(5)展示ゾーニングおよび動線計画案

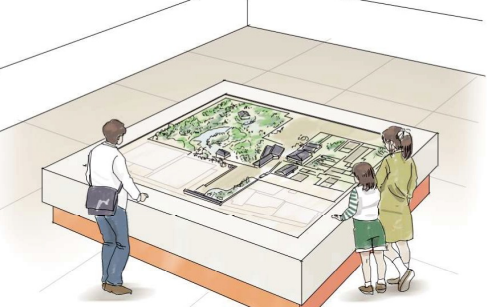


まちなか観光案内



情報検索
まち歩きアレンジメントサービス

旧長谷川邸の変遷



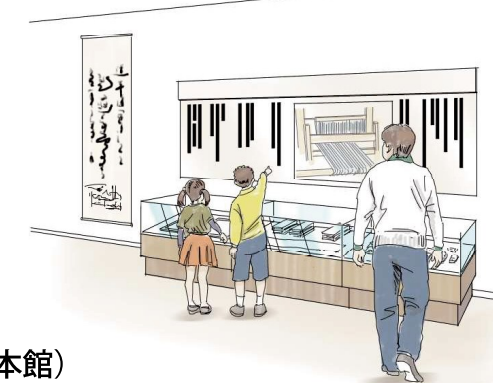
・小型情報端末によるトピックス解説
(ジオラマ上の要素と連動した情報提供)

木綿問屋「丹波屋」



・ミニシアター
・解説パネルおよびグラフィックデザイン演出
(店舗として活用されていた当時の写真や、江戸店のにぎわいを示す絵図など)

豪商の生活文化



・商売の道具をはじめとする長谷川家所蔵資料レプリカ展示

松阪木綿の紹介

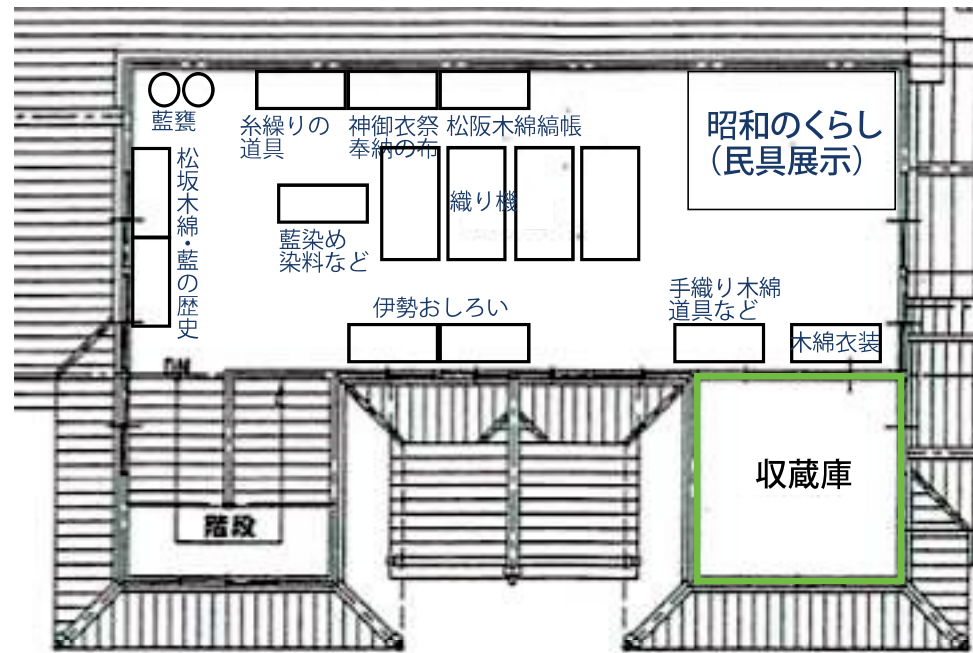


・解説パネル
・アーカイブ映像展示
・機織り機、材料実物展示
・作品、製品展示

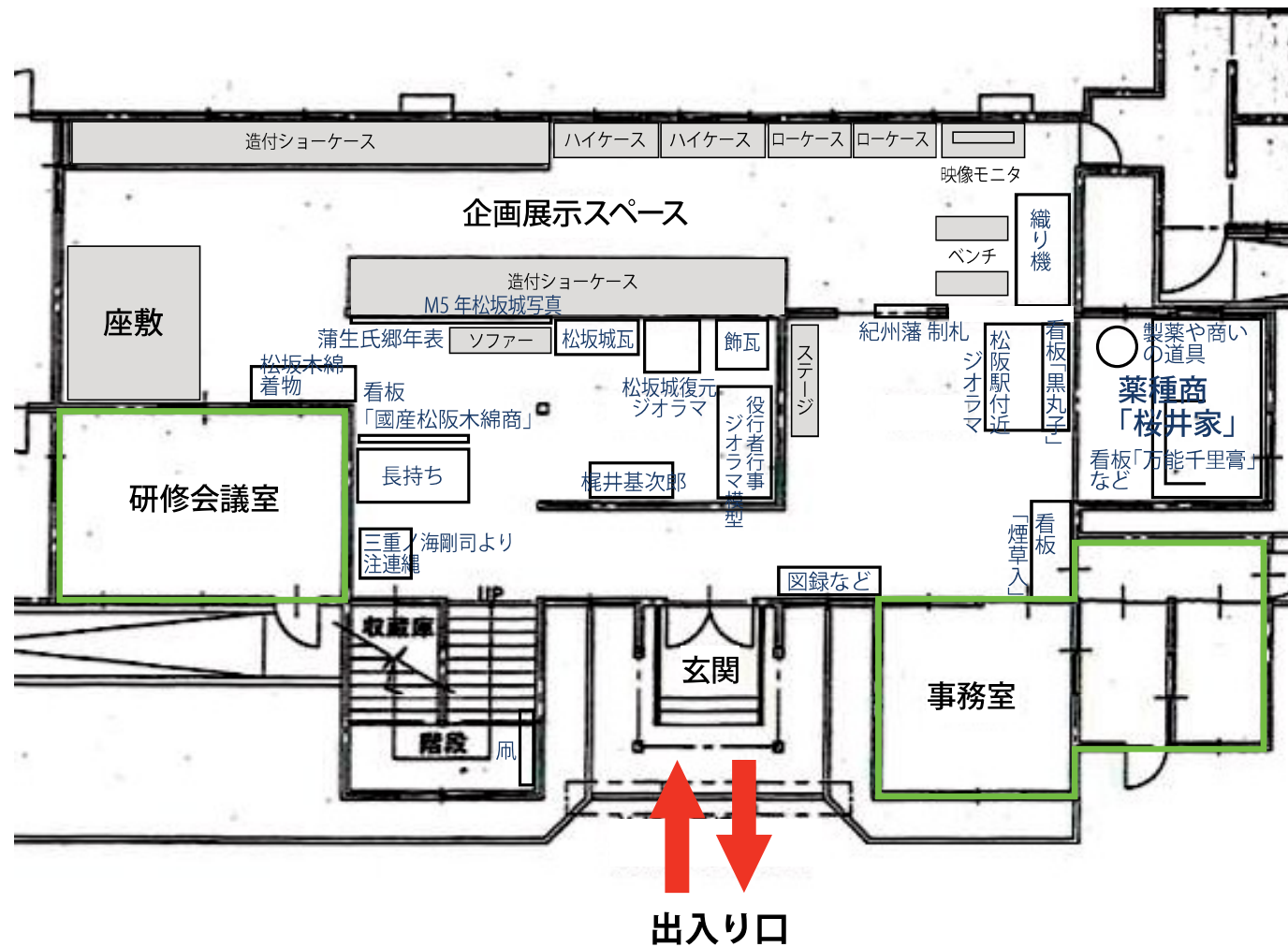
10 整備3)松阪市立歴史民俗資料館の活用

松阪市立歴史民俗資料館の現状展示

2F 展示フロア



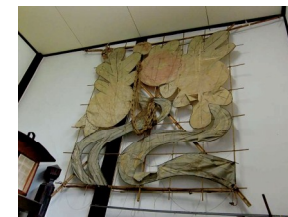
1F 展示フロア 松阪の歴史と企画展示



伊勢おしろい



卩



藥種商「桜井家」



看板「黒丸子」



紀州藩制札



企画展示スペース



(1)施設テーマ

城下町の生活文化を知る施設

松阪の歴史的起点である松坂城築城と松阪開府の全貌を“ものがたる”とともに、服部一忠、古田重勝などの歴代城主、紀州藩領として明治維新を迎えたなど、今日へと連なる松坂城と城下町の歴史への想いを深められるガイダンス施設とします。

(2)施設のねらい

1	松坂城と城下町の礎を築いた蒲生氏郷に関する理解促進	2	松阪の城下町の生活文化に関する理解促進
---	---------------------------	---	---------------------

(3)施設構成

1F	展示フロア
----	-------

松坂城関連の情報を
発信するガイダンスの場

- 展示ゾーン●
 - ・展示コーナー
 - ・企画展示コーナー（梶井基次郎 等）
 - ・まちなか観光案内
- 共用ゾーン
 - ・休憩スペース
 - ・トイレなど
- 管理ゾーン
 - ・事務所

2F	展示フロア
----	-------

城下町の生活文化にふれる場

- 展示ゾーン●
- 屋外
 - ・鬼瓦ギャラリー
 - ・藍畑

展示・体験の場

(4)展示構成

大項目（ねらい）	中項目	（内容）	展示の考え方
① 蒲生氏郷の生涯	1) 松坂城主・蒲生氏郷	松阪での足跡を中心とした蒲生氏郷の人生を紹介。戦国武将として抜きでる才能をもっていたこと、信長の目に留まり運命が決定したこと、辞世の句を残し病により没したことなどを伝える。	蒲生氏郷の人生や文化人としての一面、目指した社会について紹介する。ストーリー性やドラマ性が重要な内容であるため、 実写、アニメ、再現CGなどによるオリジナル映像番組を制作 し上映する。
	初代松坂城主である蒲生氏郷の人生について伝える。	2) 蒲生氏郷の素顔	映像番組を補完するために蒲生氏郷に関する資料の展示を行う。蒲生氏郷に関する資料は現収蔵資料にはないため、 他館の資料からレプリカ制作 を行い、これを展示する。映像番組のなかで解説されている情報のうち、蒲生氏郷の年譜やなど映像では詳細に伝えづらい情報については グラフィック での展示も行う。
	3) 蒲生氏郷のシナリオ	蒲生氏郷が目指した社会づくり、都市計画などについて紹介する。	
② 松坂城築城と松阪開府	1) 松坂城築城	城下町の発展を考え、まちなかの森に松坂城を建造し、海岸沿いの松ヶ島城から移ったこと、松ヶ島住人を移住させ急ピッチで築城したことなど、築城に関する話を紹介する。	現在の 松坂城跡のジオラマ模型（縮尺：1/200、サイズ：2500×2000mm程度） により松坂城の特徴を紹介する。北丘を中心とした現状の松坂城跡のジオラマ模型をベースに、ICT技術により郭の構成や建築構造上の特徴など見学の際には伝わりづらい全体像の解説を行う。あわせて松坂城のかつての雄姿のイメージを見せるなど、様々な角度からその魅力について紹介する。ジオラマ模型を補完するために城郭に関する資料の展示を行う。瓦など発掘調査によって発見された 資料の実物を展示 する。
	蒲生氏郷により城下町がつくられ、商都まつさかの基盤ができたことを伝える。	2) 松坂城の構造	
	3) 城下町の建設	旧領の近江・日野から商人を呼び寄せて日野町をつくり、楽市楽座を設けたこと、インフラを整備し都市基盤をつくったこと、当時の城下町の構造など、城下町建設にまつわるものがたりを紹介する。	
③ 紀州藩・御城番	1) 御城番と御城番屋敷	松坂城警護のために松阪御城番職が設けられ、城内三の丸に御城番武士20家の居宅が建設されたことなどを紹介する。	御城番屋敷の模型（縮尺：1/100、サイズ：1200×1200mm程度） により御城番屋敷の特徴を紹介する。ICT技術により屋敷の間取りなど見学の際には伝わりづらい全体像や建設の経緯についての解説を行うとともに、その歴史的価値を伝える。
	御城番の役割と現存する長屋の資料的価値を伝える。	2) 御城番屋敷の構造	
	3) 紀州藩の役所	紀州藩および松阪領の政治のしくみについて紹介。松坂城代、松阪奉行、松阪御船奉行など藩の外向機関が集中的に置かれるなど藩の中でも要衝とされていたことを伝える。	紀州藩および松阪領の政治のしくみについて イラストなどを交えたグラフィック でわかりやすく解説する。
まちなか観光案内	まち歩きアレンジメントサービス	数々のまちなかの見どころを、来訪者の好みに応じてつなぎ、オリジナルの観光ルートを提示する。	来訪者の趣味や興味に個別に対応し、より満足度の高いまちなか観光の機会を提供するために、 情報検索とまち歩きアレンジメントサービス を行う。

① 松阪の変遷	1) 松阪の歴史	古代から現代までの歴史資料を展示し、松阪のあゆみを紹介。蒲生氏郷や豪商三家のほか、伊勢国司・北畠氏や海外貿易商・角屋七郎兵衛、茶聖・大谷嘉兵衛、勝海舟と親交のあった竹川竹斎、農政学者・東畑精一、小津安二郎監督など主要な人物についても紹介する。	古代～現代まで、松阪の歴史を一覧できる 大型グラフィック を設置する。歴史的記事や記事を補完する図表から構成されるグラフィックをベースに、 歴史資料などの実物資料やレプリカ を配置する。あわせて ICT情報検索 により、主要人物や松坂城築城から現代までの城下町の変遷についての情報を展示する。
	2) 城下町の成り立ち	築城から近世にかけて松阪のまちがどのように移り変わっていったのか、その過程を紹介。自然環境や地形の特徴、都市構造の変化、自治制度などを伝える。	
	3) 町名・小路名	城下町の繁栄を忍ばせる旧町名や小路名を紹介。城下町の面影が現在も色濃く残っていることを伝える。	
② 城下町の暮らし	1) 城下町の日常	築城から近代までの町人の暮らしの変化を紹介。城主・武士・町人の暮らしの違いや昔の子どもの遊び、江戸時代・明治時代・昭和初期・戦後など特徴的な時代の日常を伝える。	現在収蔵されている 民具を活用 し、時代や行事日などテーマに沿った 実物展示 を行う。
	2) 松阪の祭り・風習	かんて踊りや初午大祭、祇園まつり、粥だめしなど伝統の祭りを紹介。地藏菩薩に故人の冥福を祈る風習、節分に鰯の頭を焼いて戸口に挿すアクサ鰯など、地域独特の風習についても紹介する。	松阪の祭りや風習の様子を アーカイブ映像 に編集し、小型モニタで検索できるようにする。
③ 松阪の産業	1) 特産品の変遷	全国に名を馳せた松阪木綿や伊勢おしろいと言われた射和輕粉、伊勢茶、松阪万古など歴史ある産業や特産品のほか、松阪牛や三重しめじ、章姫いちごなど、現在の地場産業まで広く紹介する。	現状展示中の実物資料を活用 する。 解説グラフィック については再編集し、新たに制作する。
	2) 伊勢白粉	伊勢白粉の発祥にまつわる話や製造方法、販売ルートを紹介。水銀が原料であること、丹生で産出され、射和で製造していたこと、同業者組合が組織されていたこと、化粧品からシリマの特効薬へ用途が変化したことなどを伝える。	
屋外展示	鬼瓦ギャラリー、藍畑	屋外に置かれている資料を再整備する。	展示サイン、解説グラフィック を制作する。